

てそうなのだろうか。このくらいは知  
っているはず、これだけは教えておき  
たいと教師があれり、生徒も消化不良  
をおこす。障害をもち、必ずしも年齢  
どおりの生活経験をしていない生徒の  
能力差、個人差は大きい。どこでつま  
づき、何が欠けているかを見極め、個  
々の力を引き出し、援助していく教師  
の責任は重大である。子どもからの要求  
を受け入れながらも、わかる授業、た  
のしい授業ができればと頭を悩まして  
いる。

私は今、高等部二年生の担任である。  
H君はHR長。独歩不可で、電動車椅  
子を使用し障害は重い。しかし、生活  
態度は他の模範である。学習態度は熱  
心、行動は積極的、リーダー性は抜群  
である。碁、将棋、習字、ソロバンと  
趣味、特技も豊富である。最近はワー  
プロに挑戦している。人間性あふれ、  
「前向きに生きたい、楽しく悔いのな  
い生活をした」と努力している。

Y君は車椅子を使用し、自力での移  
動は思うようにいかない。その彼は社  
会問題についての権威である。歴史に  
関することから、世界情勢まで話しは  
じめることとどまることを知らない。

他の四人も個性的である。ワイワイ、  
ガヤガヤ、にぎやかである。同時にま  
とまりもあって、明るく楽しい。

この生徒らも将来のことになると不  
安でたまらない。決して自分の障害を  
悲観しすぎたり、恨んでばかりはいな

い。閉鎖的な社会に閉じこもることな  
く、一人の人間として世に出たいと願  
っている。しかし、まだまだ社会の門  
はせまい。

養護学校教育が義務化され、社会の  
理解も深まってはいるが、歴史はまだ  
浅い。年々児童生徒も重度化、多様化  
の傾向が強い。学校もそれに対応し、  
変化している。当然教師も変化しなけ  
ればならない。障害児教育の原点は何  
かを見失なうことなく、先輩諸氏の歩  
みと教えを受け継ぎ、子どもたちの幸せ  
とは何かを考え、親の期待と願いを最  
大限に尊重した教育を心がけていき  
たい。

(県郡山養護学校教諭)

## このごろ想うこと

青木 紀 男



園の周辺である。

作業が始まった。何と空カンや空ビ  
ン、ビニールの袋などが多いこと。た  
ちまち袋がいっぱいになってしまった。  
周りの人々が口々に、「だれが捨てた  
のだろう。こんなに」、「捨てた人に拾  
わせればいいのに」、「親子でやればい  
いのに」などとやって拾っていた。

公衆道徳、マナー、家庭でのしつけ  
等はどうあればいいのか。住みよい、  
きれいな環境づくりに努めるには、わ  
たしたちは今、何をしなければならな  
いのか。今年もまた、考えさせられた。

わが家の一員にネコが加わったのは  
昨年十一月。何年も前から、子ども  
に何か動物を飼いたいとせがまれ続け  
ていた。私は、その都度、断っていた。

ところが驚いたことに、子どもが友  
人からもらってきた子ネコが牛乳を飲  
んでいるところへ私は帰宅した。まだ  
生後二か月程の可愛い子ネコだった。  
夜になると「ニャーニャー」と弱々し  
く鳴くのを見るたび、親元へ返し、も  
う少し育ててからにした方がよいので  
はと考えたりした。

一日に二、三度は運動のためと、欲  
求を満たしてやるために外へ出すこと  
にした。時折、野良ネコに何の警戒も  
なく、なれなれしく近づいては、噛み  
付かれるということがあった。一週間  
もすると、元気がなく、ビッコを引い  
たり、足を引きずって歩くようになる。  
可愛想で見えていられない。こんなとき

は、決まって家畜病院へ連れていく。  
病名は、何と「イヌネコヒッカキ病」。  
化膿した足も回復し、見る見る元気を  
取り戻してくれた。こんな病院通いを  
何度か繰り返し、家族中で心配をした  
のである。

近ごろは、大部成長し、逃げ上手に  
なったのだろう、猛烈な勢いで家に戻  
ってくるようになった。もらってきた  
当時は、階段の昇降すら出来なかった  
のに、今では私よりもより、身軽に、と  
つと早くやつのける。

私が家に帰ると、時折、近寄ってき  
て、私の足に何度も体を擦り付け、し  
まいには腕に飛び上がってくるものが  
ある。可愛いとしか言いようがない。  
このようにして、子ネコはすっかり  
わが家の大の人気者になってしまった。  
同時に、家族の一員というよう存在  
である。イヌは人に懐くが、ネコは家  
に懐くということもよくわかった。寝  
食は、安全でしかも何不自由ないが、  
一体全体ネコにとっては幸せなのだろ  
うか。幸せであることを願わずにはい  
られなくなってしまうた。

家が汚れるとか、不潔だ、懐かない  
で死なせてしまうのではないかなどと  
いう先入観で物事を決めつけてしまい、  
これまで動物を飼うことに反対してい  
た自分の至らなさを反省している。も  
つとつと早くから飼ってやればよか  
ったものと考えさせられるこのごろで  
ある。

(県教育庁義務教育課指導主事)